



資料 2

各圏域別の状況について (北多摩南部)

東京都地域医療構想アドバイザー

一橋大学 経済学研究科

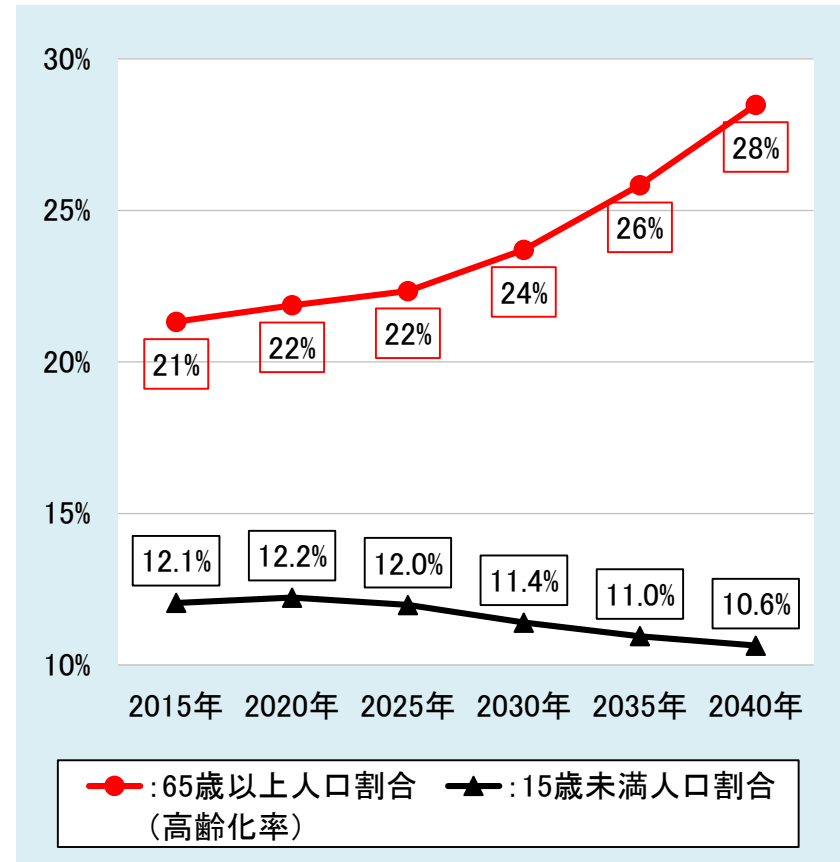
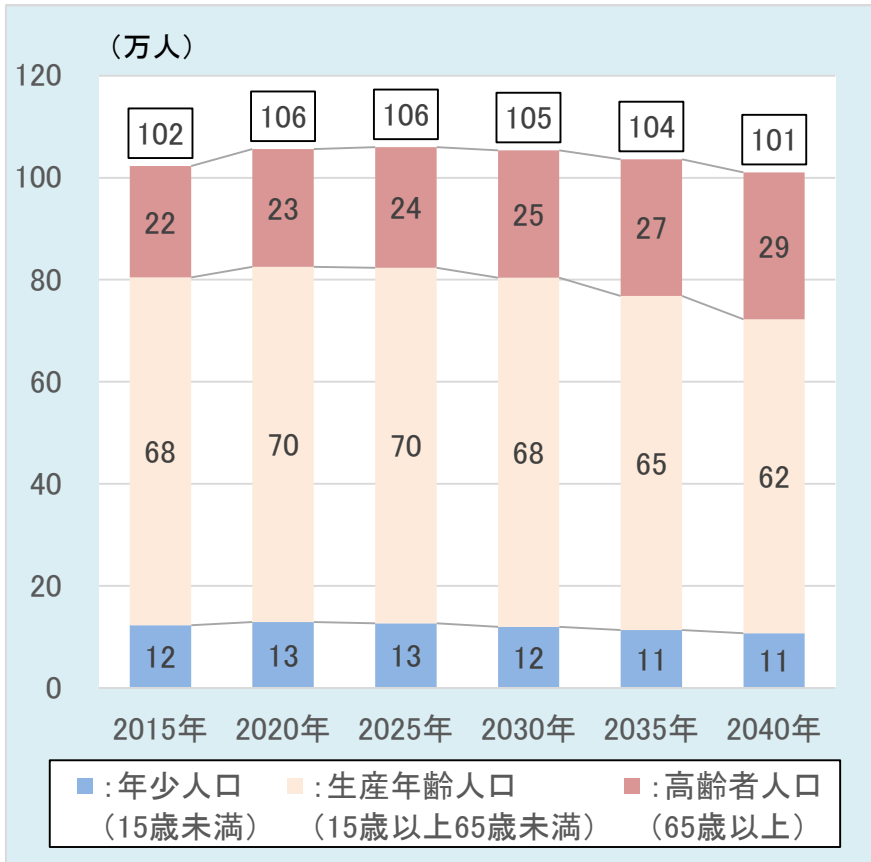
高久 玲音

高橋 雅生



人口動態

- 北多摩南部は2030年以降高齡化が加速
 - 高齡化率：24%（2030）→28%（2040）



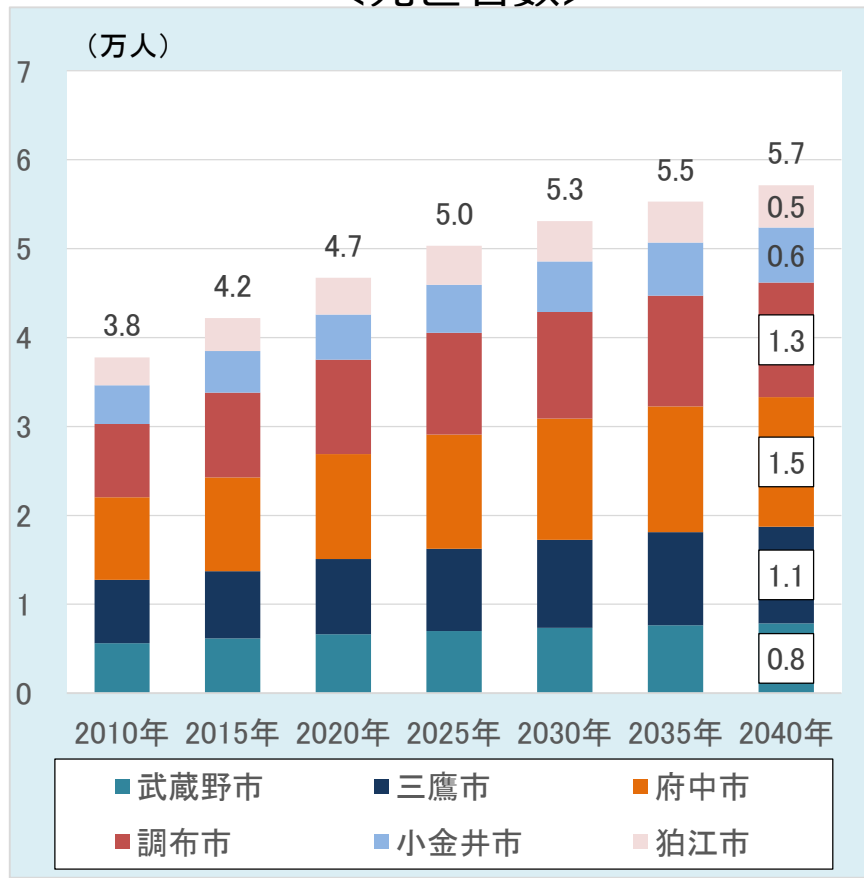
(出所) 東京都総務局「東京都世帯数の予測」(平成31年3月)



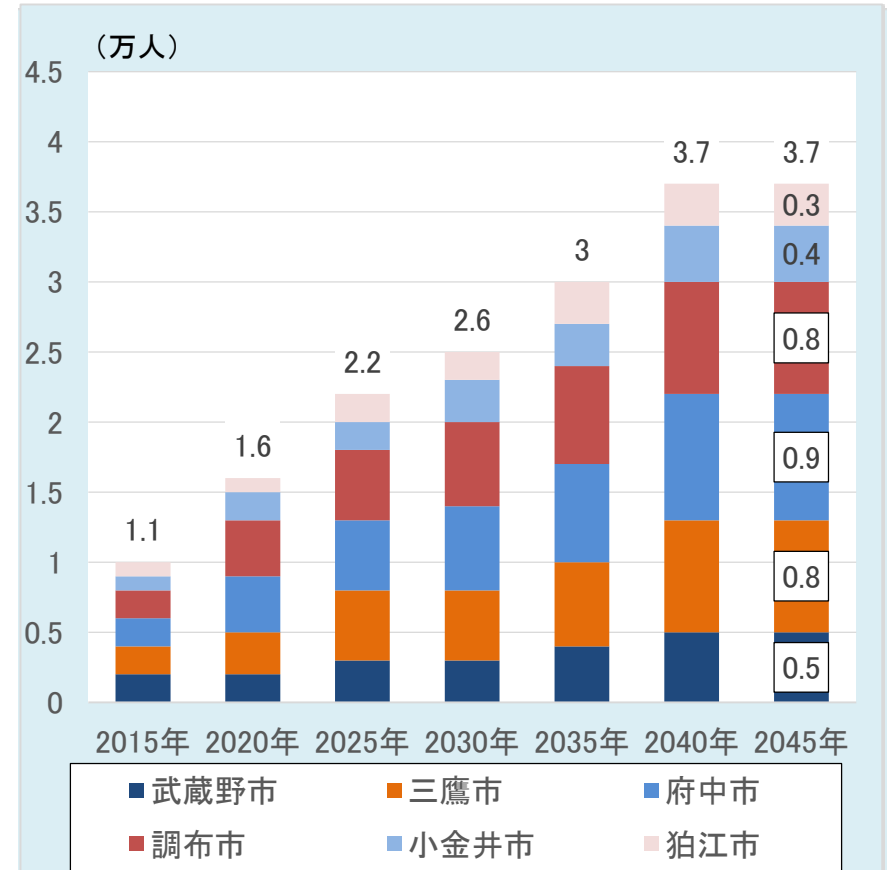
超高齢化の動向

- 死亡者数、90歳以上人口も増加
 - 90歳以上人口は1.1万人から3.7万人へと増加

<死亡者数>



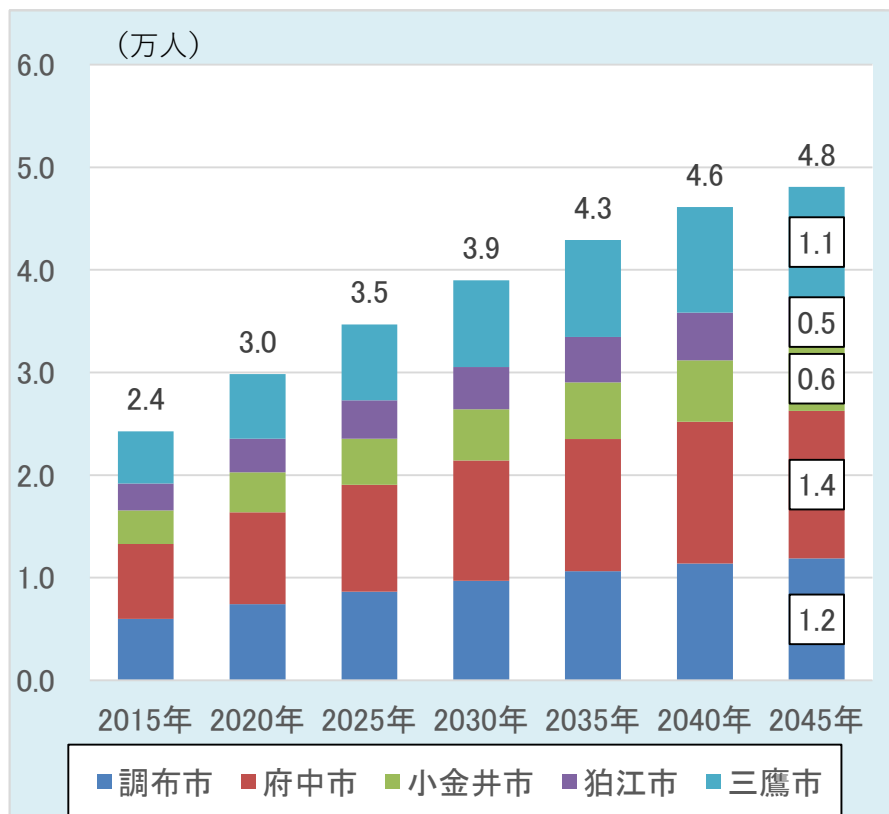
<90歳以上人口>



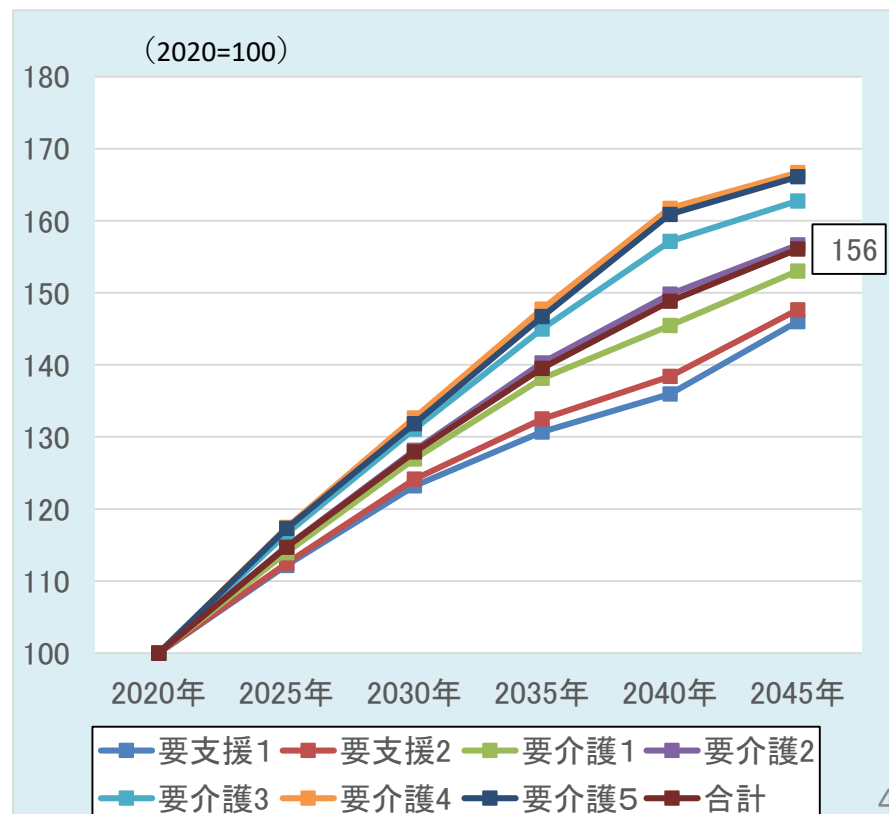
要介護認定者数の将来推計

- 2040年の要介護認定者数は56%増
 - 要介護4、5で特に増加

＜区別要介護認定者数＞



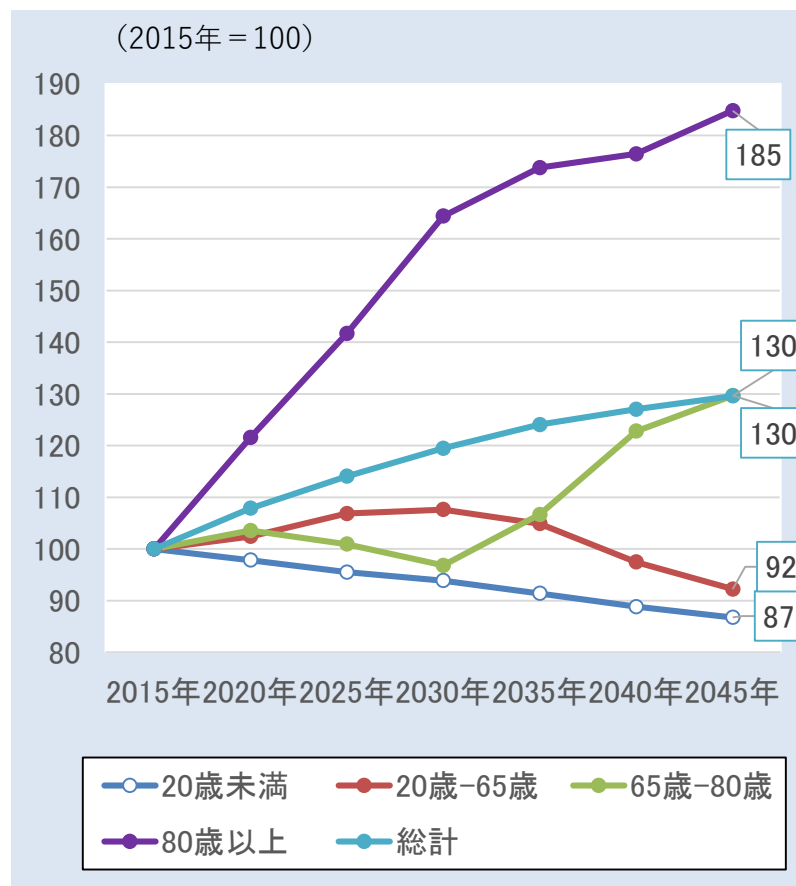
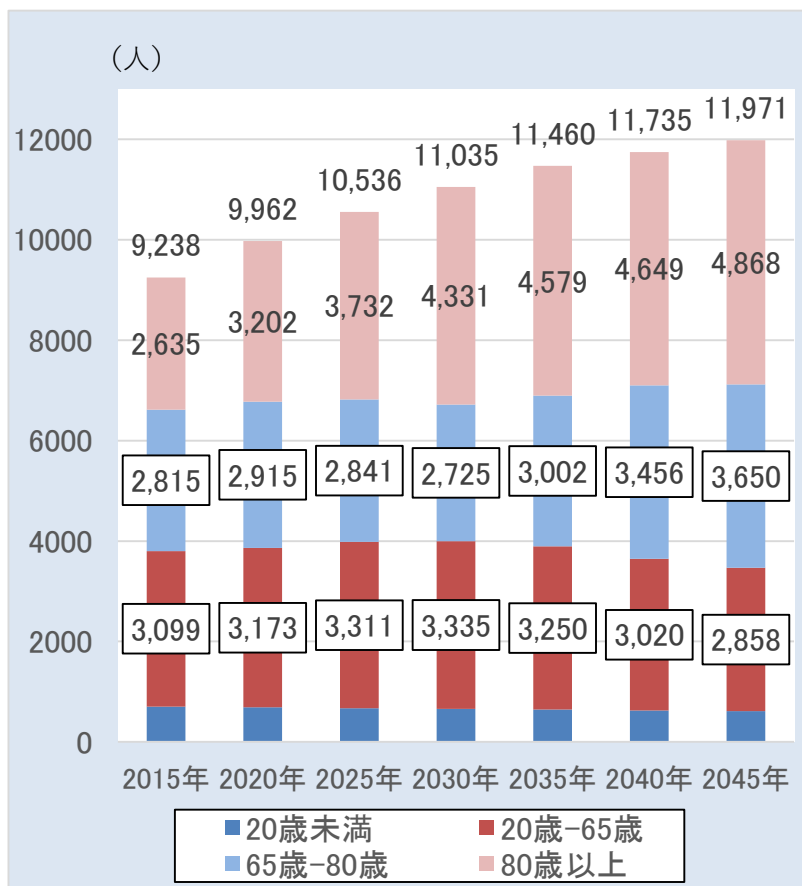
＜要介護度別認定者数＞





入院患者数の将来推計（年齢別）

- 2045年にかけて80歳以上の入院患者が85%増加

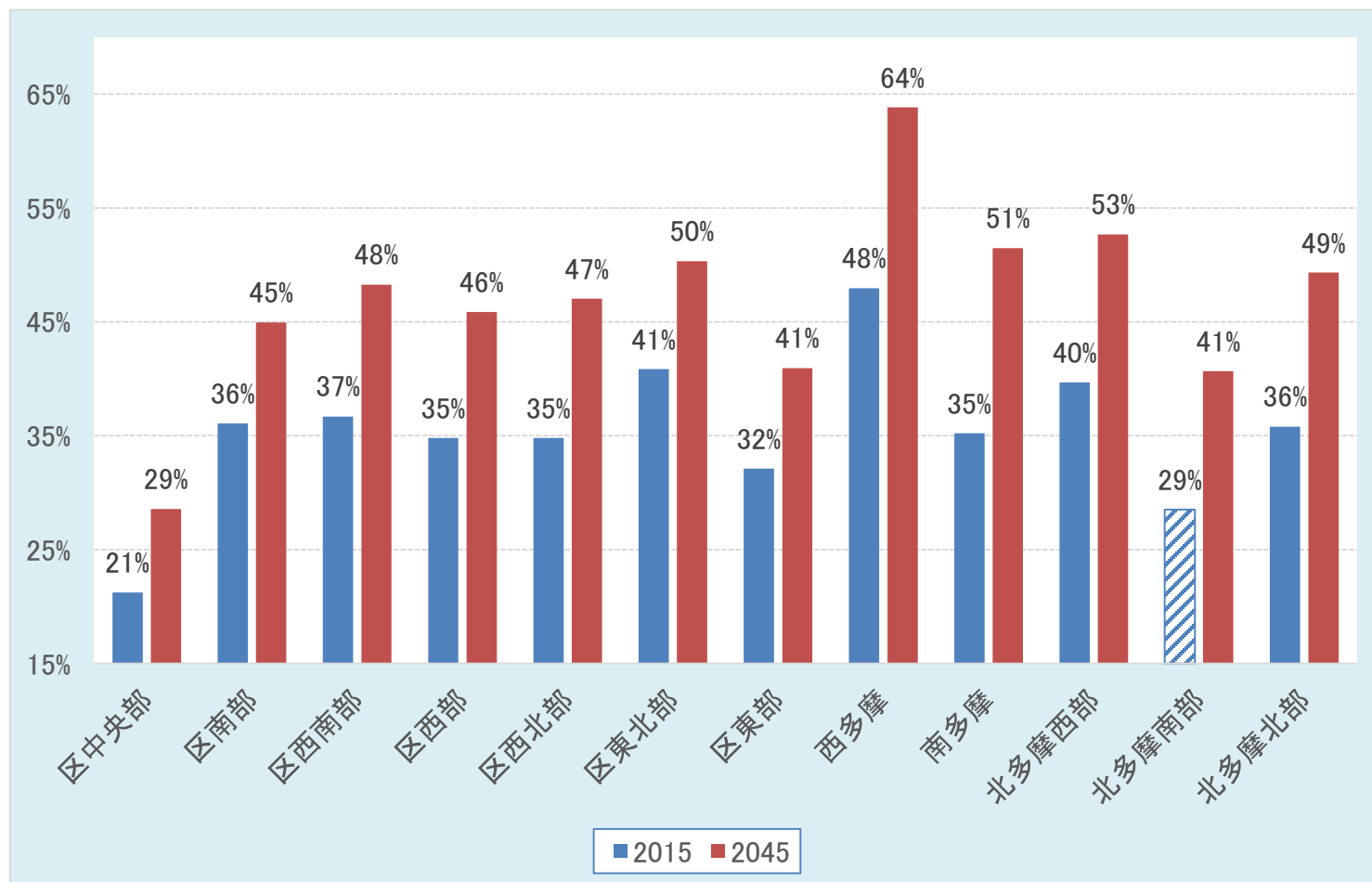


(出所) 東京都総務局「東京都世帯数の予測」（平成31年3月）及び患者調査（平成26年度）から推計。



80歳以上の入院患者割合

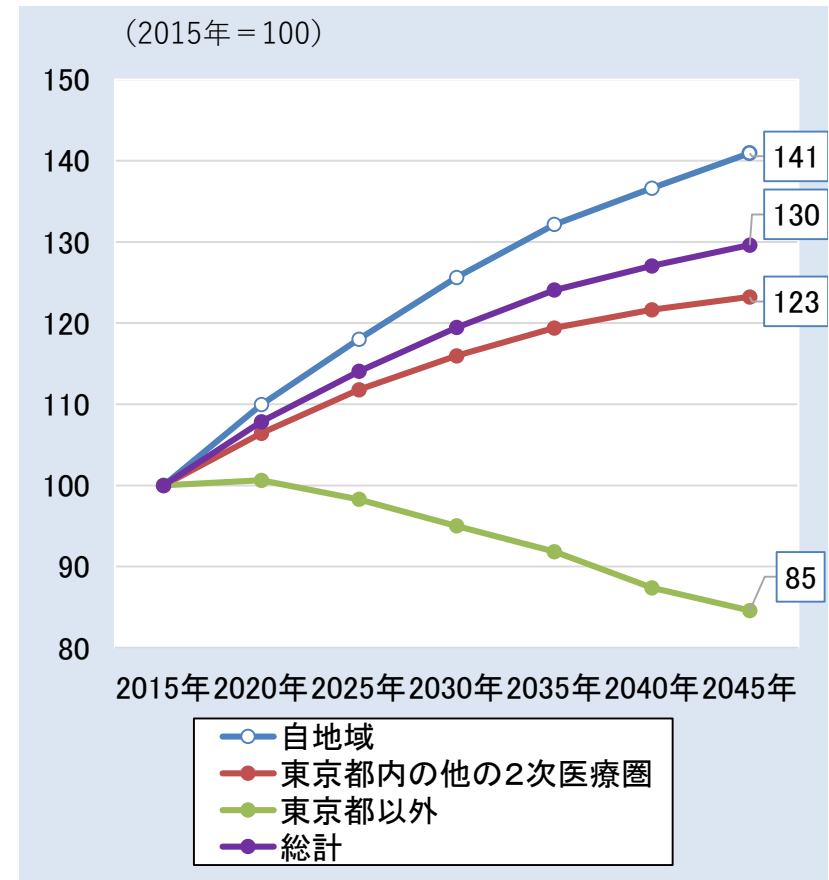
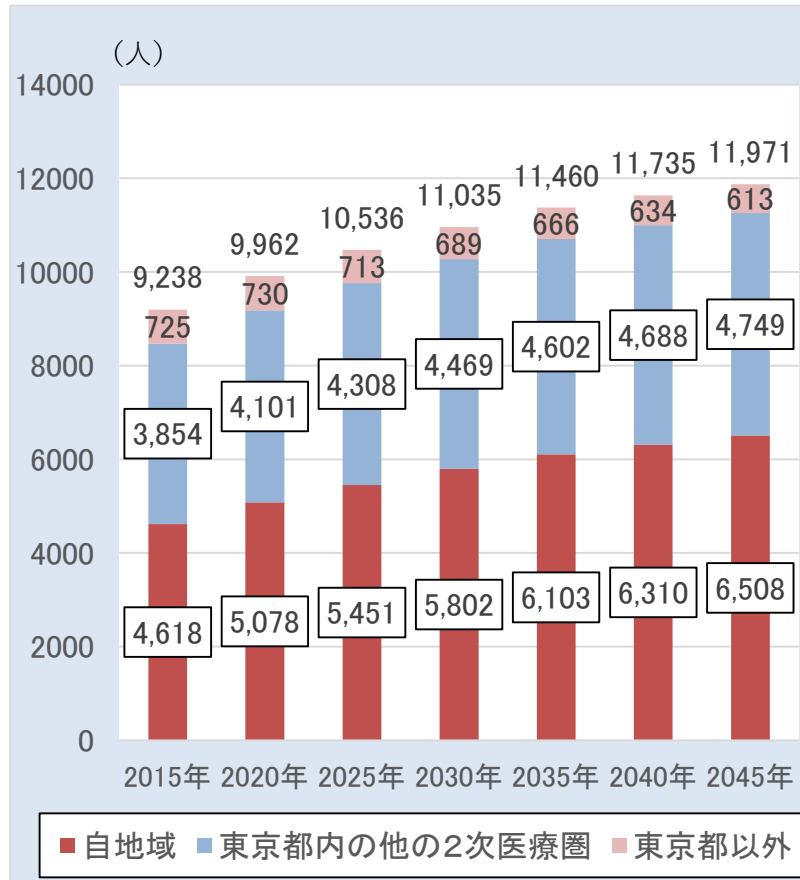
- 80歳以上の入院患者は29%から41%へ増加





患者住所地別の将来推計

- 自地域の患者数は41%増加
 - 他県からの流入は減少



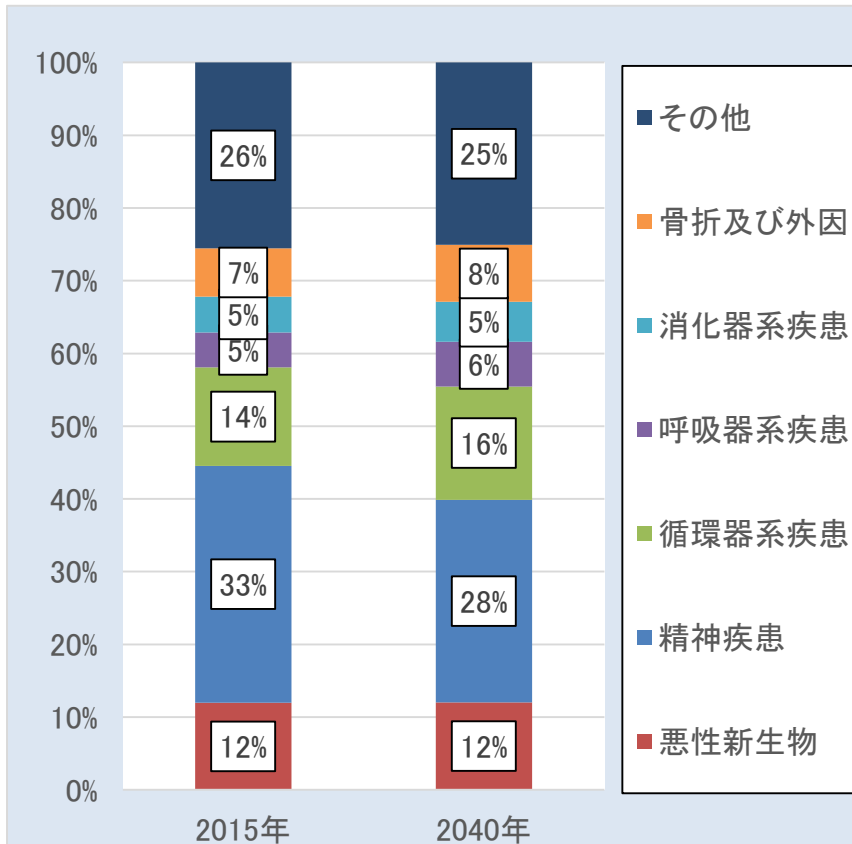
(出所) 東京都総務局「東京都世帯数の予測」(平成31年3月)及び患者調査(平成26年度)から推計。



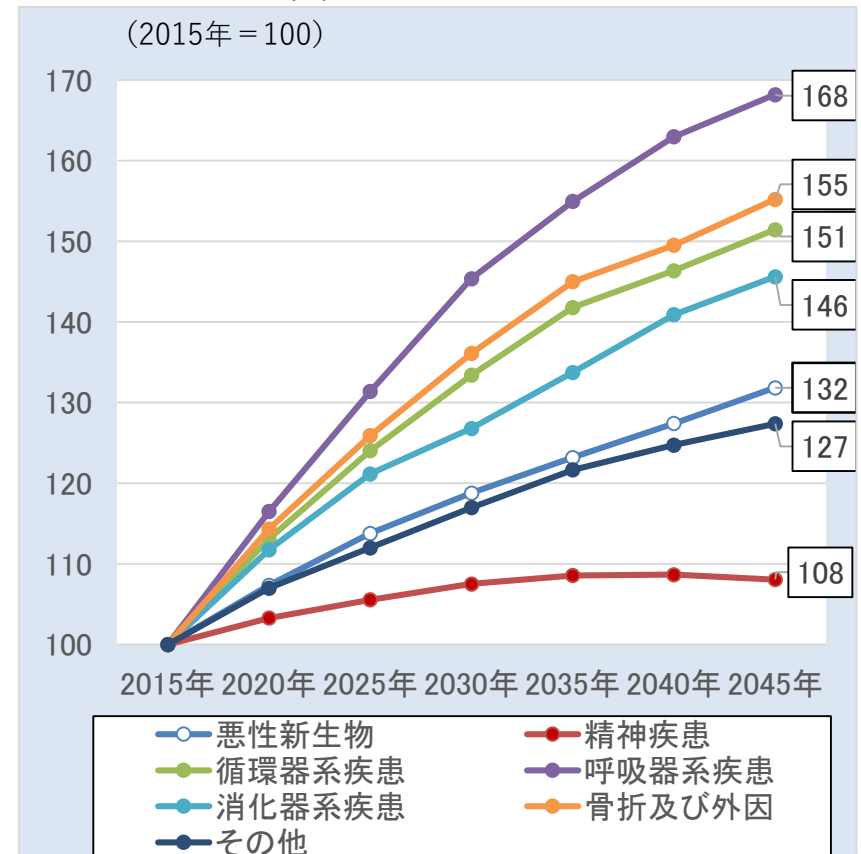
疾病種別の将来推計

- どの疾病でも患者数は増加
 - 呼吸器系疾患、骨折及び外因、循環器で増加率が高い

＜2015年と2040年の患者シェア＞



＜疾病別入院患者数＞





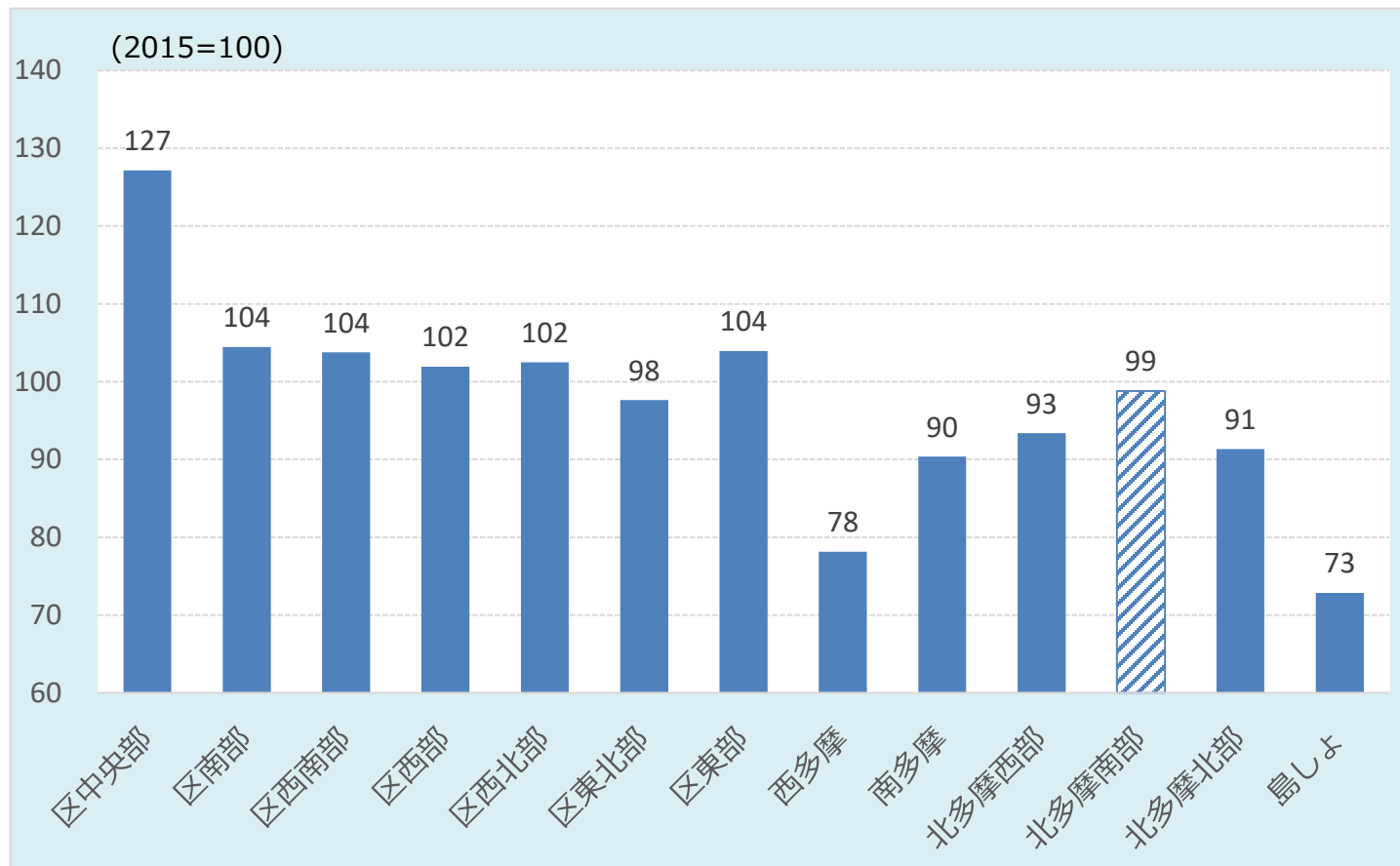
ポイント

- 超高齢化の進展
 - 2030年以降に高齢化が加速
 - 死亡者数、90歳以上人口も増加
- 入院患者数は80歳以上で増加
 - 2040年には41%の入院患者が80歳以上
- その他の入院医療の将来像
 - 他地域からの流入は減少
 - 自地域の患者のニーズにこれまで以上に応える必要
 - 呼吸器、骨折、循環器系疾患が増加

人口総数

- 2040年も2015年とほぼ同等の人口規模

<2040年の人口：2015年対比>

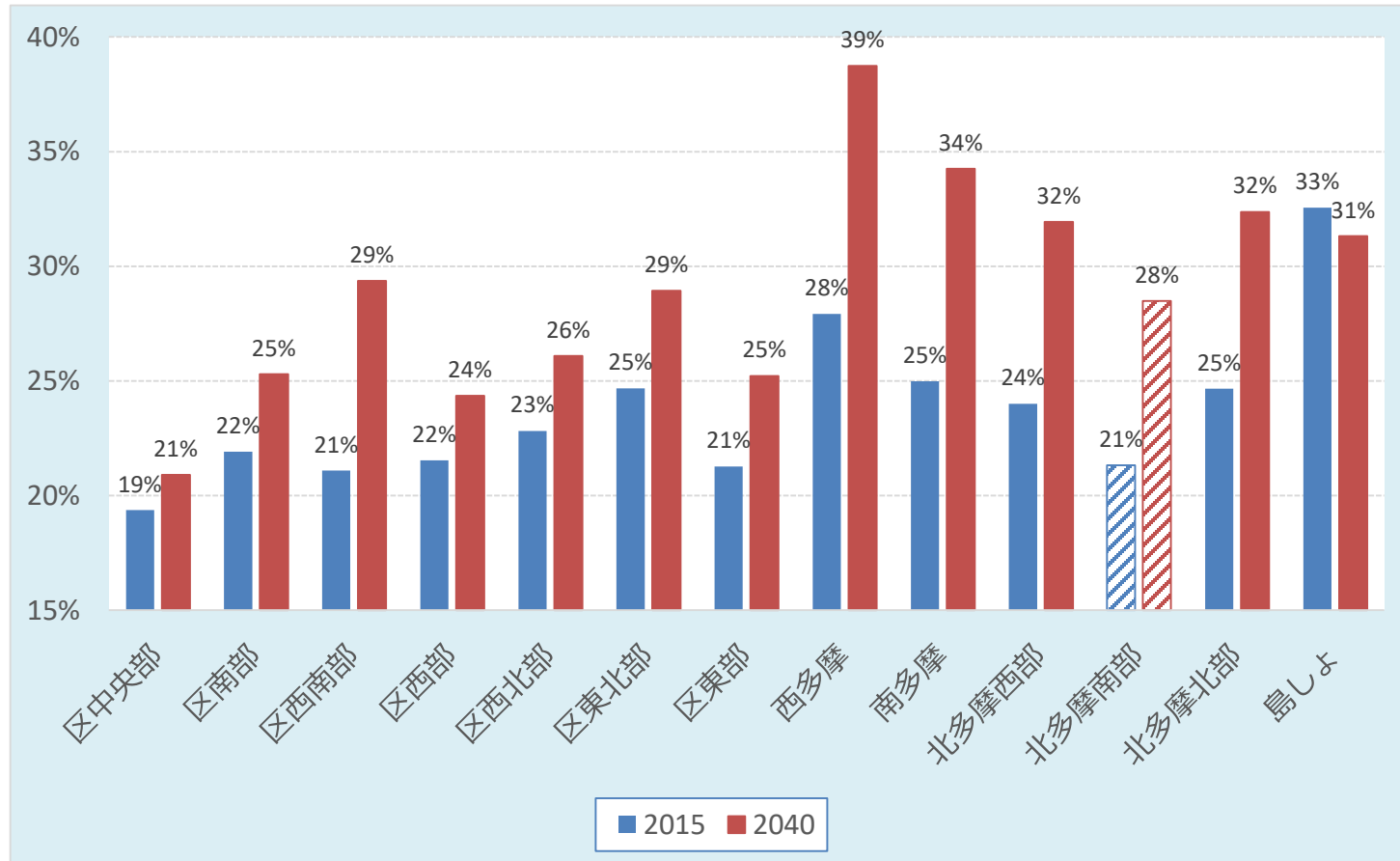


(出所) 東京都総務局「東京都世帯数の予測」(平成31年3月)

高齡化率

- 高齡化率は近隣地区と同様に21%から28%へ増加

<高齡化率>

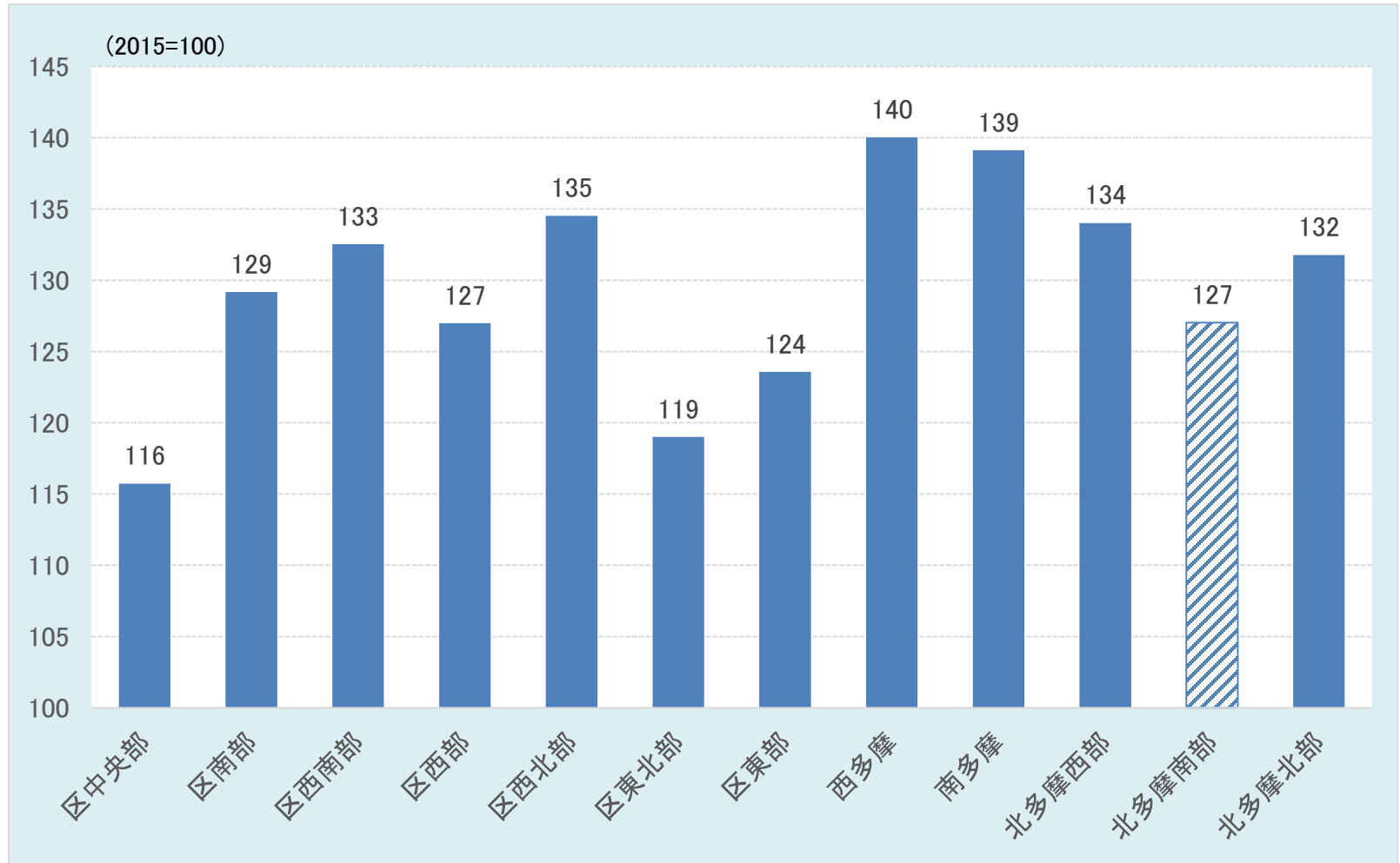


(出所) 東京都総務局「東京都世帯数の予測」(平成31年3月)



入院患者総数：2045年

<入院患者総数：2015年対比>



(出所) 東京都総務局「東京都世帯数の予測」(平成31年3月)及び患者調査(平成26年度)から推計。



入院患者数の将来推計の方法

- A) 患者調査（平成26年度）の調査票情報を用いて入院患者数を5歳階級別・患者住所地別・疾病別に推計
- 患者住所地は①推計対象となる2次医療圏、②①以外の東京都内、③他都道府県、の3種別で推計
 - 疾病はICD10をもとに7種類（e.g., 循環器、呼吸器）
 - 年齢は0~5歳など19階級
- B) Aで推計した患者数について、推計対象となる2次医療圏への流入率を推計
- $\text{流入率} = \text{推計対象となる2次医療圏への流入患者数} / \text{患者総数}$
- C) Aで推計した入院患者数を人口当たりに換算し、入院患者の発生率を年齢別に一定と仮定して将来人口推計で2045年まで延伸。
- D) Cで推計された将来にわたる入院患者数に対して、推計対象となる2次医療圏への流入率を掛け合わせて、各2次医療圏の入院患者数を算出